

# やらまいかスピリッツで 災害に強いまちづくり



浜松市消防長 鵜飼 孝

浜松市は、東京と大阪のほぼ中央、静岡県西部に位置し、国土縮図型都市と称されるなど、四方を川、湖、海、山と異なる環境に囲まれており、自然と都市部が共存する都市です。また、年間の日照時間が長く、温暖な気候に恵まれており、四季折々の多様な景勝が楽しめます。

昨年度は、まさに「直虎イヤー」として、大河ドラマ「おんな城主 直虎」の放送に合わせ、浜松が「井伊の赤備え」一色に染まり、多くの観光客が訪れ、浜松の魅力を全国に発信できた年でありました。

その大河ドラマの中でも表現されていましたが、浜松は「出世の街」と言われています。その所以は、浜松城を居城とし、やがて天下人となった徳川家康公です。29歳から45歳の青年期に浜松城の城主を務め、この地において天下統一の礎を築きました。今川家の人質時代から戦国一と言われた武田信玄公に果敢に戦いを挑み敗北した三方ヶ原の戦いなど、数多くの苦難を乗り越え、負けても立ち上がり、様々な経験をバネにして何度でも挑戦していく不屈の精神をここ浜松において培っています。その後、数々の浜松城主が江戸幕府の要職に登用されたことなどから、浜松城は「出世城」と呼ばれるようになりました。

この出世スピリッツは、「やらまいか」に表される本地域の気風に引き継がれ、浜松市は新しいものに挑戦する「ものづくり」のまちとして、スズキ株式会社、本田技研工業株式会社、ヤマハ株式会社、株式会社河合楽器製作所、浜松ホトニクス株式会社などの世界的企業を育みながら発展してきました。

「やらまいか」とは、浜松市近隣の方言で、「やってみよう」「やってやろうじゃないか」を意味し、新しいことにチャレンジする精神を表しており、職員は、未来を見据えた中で、常に各施策を「やらまいか」スピリッツを持って進めていくよう心掛けています。

浜松市消防局は、昭和23年の消防組織法制定に伴い、浜松市消防署を設置し、職員37人、消防ポンプ車2台体制から業務を開始し、救急業務も県下で最初に開始しております。その後、平成17年に12市町村による合併を経て、平成19年に政令指定都市となりました。現在、職員890人、消防車両等140台、消防ヘリコプター1機の配備により「いつでもどこでも迅速的確に対応する消防・救急体制づくり」を基本政策として、市民80万人の生命・身体・財産を日夜守っています。

近年、全国各地で地震、台風、火山噴火、集中豪雨などの多くの自然災害が発生しており、より一層の広域応援体制の充実、他機関との連携の強化が重要となっています。こうした中、静岡県においては、県内応援の充実を図るべく、昨年度県内消防相互応援協定の見直しを図り、より実効性の高い体制となりました。

浜松市においても、南海トラフ巨大地震の発生による甚大な被害が危惧されており、静岡県と連携し高さ13m（一部15m）の防潮堤の整備工事等を行っているところです。

職員一丸となって「やらまいか」スピリッツのもと、災害に強いまちづくりを目指し、市民の安心・安全を守るため万全を尽くしてまいります。